

運輸区 とうとう 第四十五号

とをいい加減に学ぶべきです。というか、この法案では給付金が対象者に支給される代わりに、



少子化対策、待ったなし！

国民全員で真剣に考えよう

昨年の SOGA 班新聞でも一度取り上げてきました。少子化問題、高齢化問題、勿論セットでの議論が必要ですが、中でも少子化対策は喫緊の課題であ

り、国民全員が真剣に考えなければならぬ状況かと思えます。岸田の示した「異次元の少子化対策」も、選挙対策でしかない金のばら撒きでは、一時的なもので解決にはほど遠いこ

国民から徴収される月額保険料も増えるというもので、新たな増税となり、財源の確保についての考え方はいい加減です。

誰もが安心出来る

将来設計を！！

岸田の示したものは、本当に日本の将来を心配しているものとは思えません。そもそも少子化対策が、それだけで議論されるべきではなく、国全体の総合的な議論（様々な分野での）が必要ではないでしょうか。

何故、結婚率、出産率が下がっているのか、勿論様々な要因はありますが、若者たちが安心して暮らしていける将来設計が描けないことが、第一の理由かと思えます。その中で一番不安なのが、拡大しすぎた非正規雇用制度の存在ではないでしょうか。これを完全になくし、色々な分野（医療、福祉、教育等々）での展望が開けていくことで、誰もが正社員で安心し、安定した生活が保障されなければ、将来の夢も描けません。

これを読んでいる皆さんも「自分には関係ない」ではなく、常に社会の底上げを考えていないと、いつかは確実に火の粉は自分に降りそそぎます。

政治を変えられるのは、私たち労働組合の本気の力と行動です。今こそ！！

うたてつ ノススメ 33

ホームにて（中島みゆき） 1977年9月

ふるさとへ向かう最終に
乗れる人は 急ぎなさいと
やさしいやさしい声の駅長が
街中に叫ぶ
振り向けば 空色の汽車は
今 ドアが閉まりかけて
灯りともる 夢の中では
帰り人が笑う
走り出せば 間に合うだろう
かざり荷物を振り捨てて
街に 街に挨拶を
振り向けば ドアは閉まる

振り向けば 空色の汽車は
今 ドアが閉まりかけて
灯りともる窓の中では
帰り人が笑う
ふるさとは走り続けた
ホームの果て
叩き続けた窓ガラスの果て
そして手のひらに残るのは
白い煙と 乗車券
涙の数 ため息の数
溜まっていく空色の切符
ネオンライトでは燃やせない
振り向けば ドアは閉まる

初の大ヒットとなった5枚目のシングル「わかれうた」のB面曲である。

最初に書いてしまうが、これは大晦日の最終列車で、田舎に帰ろうとしている主人公の話だと思う。「振り向けばドアは閉まる」というフレーズで、結局は乗らなかったことも分かるが・・・何があったのか？

1番の頭のフレーズは、別に駅長が駅の外に出て「最終が出るよ」と叫んでいるわけではない。そんなこと言われなくても、師走の慌ただしさの中で、町じゅうがごったがえし、その中には大晦日の最終に乗り遅れまいと、更に必死になっている・・・そんな様子を「叫ぶ」という言葉で表したのである。ままだ大晦日、正月と家族団らんて過ごす行事が重要視されていた時代で、何が何でも帰るといふ人も多かったのだろう。「かざり荷物を・・・」は大好きなフレーズ。荷物なんかかまってるんで、走れば間に合うよ・・・でもこの主人公は、忙しいはずの状況で「街に挨拶を」？そんなことしてる場合じゃないだろ？おそらく主人公は最初から乗る気がなかったのではないかと。「かざり荷物」も「街に挨拶」も乗らないための自分への言い訳なんだと思う。切符まで用意したのに？？1番の冒頭の「乗れる人は・・・」とは、時間的な余裕だけでなく、気持ちの余裕も含んでいたことにご

で気が付く。涙の数、ため息の数と共に溜まっていく切符・・・主人公はきっと何度もこれをくり返してきたんだろう。せつな過ぎる！「ネオンライト」とは、地方出身者が持つ都会の憧れの象徴として使った言葉だろうか。「そんなもので私の悩みは消せやしないよ」といったところか。自虐ネタが得意？な人だが、この曲では少し薄味かな・・・まだ20代！恐るべし！！